



ロンドンオリンピック開幕!

私、おおつき和弘のいとこの長女「酒井麻里子(22才)」が、シンクロのナショナルチームの一員としてオリンピックに出場します。藤沢在住の神奈川っ子です。日本シンクロは、4月21日にロンドンで開催された世界最終予選で5大会連続の五輪出場を決めました。酒井麻里子は、デュエットの出場枠獲得に大きく貢献しましたが、今回は団体での出場となりました。7月27日のオリンピック開会式には、ドイツの合宿所から参加の予定です。

シンクロの競技日程は、8月5日～10日です。強豪チーム8カ国で争う今大会ですが、これまでの練習、苦境を喜びに変える演技で成果を出してもらうことを期待しています。

また、陸上女子1万メートルに出場が内定している吉川美香選手は、麻溝台中学校の出身です。皆様の応援をお願いいたします。



ロンドンオリンピック日本チーム紹介
London Olympic All Japan Team

身近な足としての自転車。安全に利用できる環境整備が全くできていない。

自転車一方通行規制スタート

相模原 周知や指導課題に

相模原市中央区の一部市道では、自転車の一方通行規制が始まった。自転車と歩行者の交錯する事故をなくす狙いで、自転車による交通渋滞を改善する狙いもある。相模原市は、市道5-5-20に全線規制を敷いた。規制区間は、相模原市から10人が見守り初日を記念して、規制区間を歩行者と自転車との安全な利用を促すための車道横断が相次ぐなど、規制が図られた。

「待つて、ちょっと止まらなくて」と、中央17日交差点から中央17日交差点の間の約460mが対象。平日午前7時30分、相模原市防犯交通安全課では、自転車と歩行者の一方通行規制の開始を祝して、自転車と歩行者の交錯する事故をなくす狙いで、自転車による交通渋滞を改善する狙いもある。相模原市は、市道5-5-20に全線規制を敷いた。規制区間は、相模原市から10人が見守り初日を記念して、規制区間を歩行者と自転車との安全な利用を促すための車道横断が相次ぐなど、規制が図られた。

午前7時30分、相模原市防犯交通安全課では、自転車と歩行者の一方通行規制の開始を祝して、自転車と歩行者の交錯する事故をなくす狙いで、自転車による交通渋滞を改善する狙いもある。相模原市は、市道5-5-20に全線規制を敷いた。規制区間は、相模原市から10人が見守り初日を記念して、規制区間を歩行者と自転車との安全な利用を促すための車道横断が相次ぐなど、規制が図られた。

初日は自転車ユーザーに混乱が生じた一方、歩行者からは「安心して歩ける」などの声が上がった。区内に住むパート女性(41)は「市道所前の通りなど、自転車の通行は危険だ」と、規制を歓迎している。相模原市は、市道5-5-20に全線規制を敷いた。規制区間は、相模原市から10人が見守り初日を記念して、規制区間を歩行者と自転車との安全な利用を促すための車道横断が相次ぐなど、規制が図られた。



定走しようとした自転車を止め、一方通行規制の説明にあたる相模原署員
—相模原市中央区

神奈川新聞記事

相模原市内でも急増する自転車事故。改正道路交通法が施行され、事故増加の歯止めとなる大きな効果を期待する。

自転車事故の原因は、利用者のマナーによる事が多いと指摘される。小回りが効く便利な乗物のため、身勝手な乗り方が事故を誘発する。携帯を操作しながら、イヤホンをつけながら、ブレーキがない、信号無視など挙げればきりがない。ある程度強制的なマナー指導や規制、子どもの交通教育を望む。

国は自転車環境整備の取組みとして相模原では国道16号線の一部に自転車専用車線を整備したが、不十分な道路幅のため、かえって事故が心配され、左の記事のような時間指定の一方通行制限を始めた。一般生活道路への対策は全くできていない状況だ。

市内生活道路の状況から事故の懸念を警察に聴くと、答えは「道路交通法を守ってくれば事故は起きない」だ。

そもそも、車両である自転車は左側通行、人は右側通行の原則を徹底して基本にする行政施策ができていない。自転車の右側通行を奨励するような路肩のグリーンベルト化や狭い歩道への自転車の進入容認など施策の根拠を今一度整理し環境の整備を進めるべきだ。

バス旅行に、ご参加ありがとうございます。 本日の行程です。宜しくお願いいたします。



相模原にも広域防災拠点を整備すべき。

大地震等の発生時には、消防や救急等役所の支援はほとんど期待できません。防災・減災の基本(比率8割)は自助(自分の身や家族の安全は自らが守る)です。建物の耐震診断や家具の固定は必須です。近所の協力体制づくり(共助)も現実的に考えて行きましょう。

公助の充実には広域連携による支援体制の構築が不可欠です。国は、首都直下地震など首都圏大災害の発生に備えて、東京有明の埋立地に「東京湾臨海部基幹的広域防災拠点」を整備し、災害時には、「緊急政府本部」が設置されます。

しかし、東京湾への津波被害や液状化の懸念は払拭できません。私は、市議会本会議で、既に日米合意した相模補給廠の一部返還後の利用案として、「35ヘクタールの米軍との共同使用区域については、広域防災連携ができる防災機能を備えた防災公園」と提案し、市長は具体的な検討を発言していました。昨年の震災を受けて、相模原市は国に共同使用区域を東京臨海部の防災拠点と同様の機能を持つ施設整備を要望しました。横浜市も、瀬谷区の米軍通信施設に同様の要望をしています。また、座間キャンプに駐屯する自衛隊第4施設群は、仮設橋や給食などの装備・機能を持つ部隊です。



大船渡駅前通り付近

公共交通審議会委員を引受けました。

少子高齢化が加速し、相模原市も例外ではありません。地域の商店街や商店が後継者不足や不況のあおりで大変厳しい状況が続く中、日々の買物にも不便する状況が増えています。「買物難民」や「通院難民」対策は、市民生活の大きな課題です。

地域の足となるべき路線バスの利便性向上や、より細やかな移動交通を可能にするコミュニティバスの導入推進など

に具体的な取組みが必要です。

相模原市には、警察やバス事業者、道路管理者などの行政委員が公共交通のあり方を考える法定設置の「相模原市地域公共交通会議」が設置されています。私は、市民公募に応募し、7月から会議が始まります。前記の課題の改善に向け、市民目線で取組み、具体的な施策につなげて行きます。

おおつき和弘



スロフィール

経歴等

- *1955年(昭和30年)山形県酒田市生まれ
- *相模台中学校(2期生) *大和高校(9期生) *多摩美術大学卒
- *御園五丁目自治会長(8年) *相模台地区自治会連合会副会長
- *御園児童館・双葉小児童クラブ運営委員長 *双葉小見守り隊長
- *相模原災害ボランティアネットワーク副代表 *防災専門員

議員経歴

- *平成19年 相模原市議会議員選挙に初当選
- *平成21年 相模原市議会 創史会 結成、会長就任。
- *市議会 民生委員会・建設委員会 副委員長
総務委員会、基地対策・産業集積特別委員会委員
- *全国災害ボランティア議員連盟会員

現在

- *相模原市地域公共交通会議委員 *自治会法人 御園五丁目自治会長
- *相模台地区防災専門員 *双葉小学校評議員
- *相模原災害ボランティアネットワーク運営委員